

解答例

記事では、災害における救助活動などについて、行政が SNS 上に情報を発信したことで住民に安心感を与えたり、新たな議論を生み出したりした例が紹介されている。行政からの情報を必要な人に直接すばやく届けたり、活動について広く市民の理解を得たりできるのは、緊急時に行政が SNS を使うことの大きなメリットである。しかし私は、緊急時の行政の SNS 利用が、新しい情報の発信だけでなく、そのとき世間に流れている情報が正しいものかどうかの判断基準としての役割を果たすこともまた重要ではないかと考える。

そもそも、緊急時における情報のやりとりにおいて重要となるのは、その正確さと早さである。間違った情報が拡散されれば余計な混乱を招きかねないし、正確な情報であっても時間とともに状況が変化し、現状にそぐわないものになってしまうことがあるからだ。情報共有の場としての SNS は一般的に、情報発信の早さに優れている反面、間違った情報が拡散されてしまいやすいというリスクがある。そのなかで、行政などの公的機関が発信した情報は信頼度が高いとされ、人々が情報の正誤を判断する際の指針となる。9月の北海道胆振東部地震では、SNS 上でさまざまな情報が飛び交い、自治体のアカウントが一部の情報について「事実と異なる」と発信して混乱を収めようとするということがあった。このように、行政が SNS で情報発信を行うことで、より早く、より正確な情報を得ることができるようになるのである。

もちろん、私たち情報を受け取る側は、与えられた情報をただうのみにするのではなく、発信源や投稿日時、それが最新の情報なのかといった点を確認しつつ、情報の信頼性について判断する姿勢が求められるだろう。そして、行政が SNS を利用するにあたっては、その判断の基準となる情報を発信することが求められるのではないかと私は考える。具体的な方策としては、SNS の管理者とも協力しながら、災害時にどのような情報が拡散されているのかをチェックする組織を編成し、どのような情報を発信するのが効果的かを見極める体制を整えることなどが挙げられる。

いくら誤った情報が拡散される危険性があるといっても、人々が SNS を通じて情報のやり取りをすることは止められないだろう。したがって行政は必要な情報が必要な人の元に少しでも多く届くよう、SNS をうまく利用していくべきだと私は考える。